

I-5 蛍光リンパ管造影を用いたナビゲーションリンパ外科手術

山本 匠¹, 山本 奈奈¹, 坂井 勇仁¹, 布施 佑馬¹, 十九浦 礼子¹

¹国立国際医療研究センター 形成外科

【背景】様々な病態によりリンパ循環障害が生じ、リンパ浮腫などの難治性疾患を生ずる。ICG リンパ管造影によりリンパ管疾患の病態が評価でき、病態に応じた様々なリンパ再建手術が可能となりつつある。

【方法】ICG リンパ管造影によりリンパ循環動態を評価し、リンパ管疾患の診断・重症度評価を行う。早期リンパ浮腫に対してはリンパ管細静脈吻合(LVA)で、晩期では血管柄付きリンパ節移植(LNT)・減量術で治療する。組織欠損を伴うリンパ管損傷に対しては、リンパ軸を考慮した組織移植術(LAB)により欠損組織とともにリンパ流を再建する。

【結果】早期リンパ浮腫に対する LVA は 454 肢で行われ、404 肢(89%)で減量効果を認めた。進行例に対する LNT は 177 肢で施行され、145 肢(82%)で減量効果を認め、ドナー部リンパ浮腫は 0 例であった。LAB による組織・リンパ同時再建は 23 例で行われ、19 例(83%)で術後 ICG リンパ管造影において良好な再建リンパ流を確認できた。

【結語】ICG リンパ管造影はリアルタイムにリンパ流を明瞭に可視化できるため、種々のリンパ管疾患の病態生理に応じて適切なリンパ再建手術を選択することが可能となる。